【正誤表】

書 名:ワトソン遺伝子分子生物学 第7版

版 数:7版2刷

ページ	箇所	誤	正
122 124	下1行目 4行目	部分的に二重結合をつくる性質を	二重結合に近い性質を
131	1行目から	折りたたまれたポリペプチド鎖の2つ以上のドメインのそれぞれでは、アミノ酸残基が連続して配列している場合もある。しかし多くの場合、少なくともドメインの1つは2つ(あるいはそれ以上)の非連続的な部位から折りたたまれ、鎖の間の部分は別のドメインを形成する(図6-10b)。間のドメインは、隣接する部位から折りたたまれたドメインに挿入されているように見える。	折りたたまれたポリペプチド鎖では、2つ以上のドメインのそれぞれが一続きのアミノ酸残基配列からなる場合もある。しかし多くの場合、少なくともドメインの1つは隣接していない2つ(あるいはそれ以上)の部位で折りたたまれ、その間にある鎖が別のドメインを形成する(図6-10b)。間のドメインは、両側の部位が折りたたまれてできたドメインに挿入されているように見える。
	下10行目 から	それらはたいてい水素結合のパートナーとなっていること。この特性の理由は簡単で、極性基がドメインの表面に露出していれば、水(供与体であり受容体でもある)との間に同様な水素結合をつくるだろう。 折りたたまれた構造で水素結合が存在しないような場合は、ポリペプチド鎖が折りたたまれる過程でその基から水がはぎ取られ(水素結合の)エネルギー的な優位さが失われたということだろう。疎水性アミノ酸残基でも	それらにはたいてい水素結合をつくっている相手があること。この特性の理由は簡単で、極性基がドメインの表面に露出していたならば、水(供与体であり受容体でもある)との間に同様な水素結合をつくれるはずだ。しかし、ポリペプチド鎖が折りたたまれる過程でその基から水がはぎ取られてしまうと(水素結合の)エネルギー的な優位さが失われる。しまい込まれた官能基間の水素はそれを補完しているのである。疎水性アミノ酸残基でも

ページ	箇所	誤	正
133	コラム6-3 右段下4行目	C _H 2 ≥ C _H 3	C _H 1 ≥ C _H 2
136	17行目	類似性と予測に <mark>期待する正確性</mark> によって	類似性と予測が求める精度によって
137	3行目	結合して初めて構造を	結合して初めて <mark>一定の</mark> 構造を
	下16行目	リプレッサーには,ファージゲノムへの結	ゲノム上にはリプレッサーが結合する部位
		合部位が6個あり、	が6箇所あり、
137	下15行目	正確な配列	厳密な配列
	下4行目	側鎖数個を対合した塩基の	側鎖数個を塩基 <mark>対</mark> の
	下3行目	各塩基対の主溝の縁では	主溝の縁では各塩基対の
139	1行目	塩基配列と一致する。	塩基配列 <mark>の特性</mark> と一致する。
140	5行目	ヘリックスの1番目	ヘリックスの-1番目
141	1,9,10行目	構造をもたない	一定の構造をもたない
1.40	6行目	起こるねじれを	起こるゆがみを
142	下3行目	活性部位が阻止される構造	活性部位が働けない構造
1.49	まとめ	ペプチド結合は <mark>部分的に二重結合を形成す</mark> る性質	ペプチに対クロー手対クロンドン外所
143	左段7行目		・、ノノド和ロは一里和ロ(CUV 当主員
144	問題6 5行目	タンパク質間で異なるのは	タンパク質間で <mark>最も</mark> 異なるのは
327	図10-14 解説文中	らせんから <mark>はみ出</mark> し,	らせんからはじき出され,
331	下16行目	切断部の両側を通して元の配列を正確に	切断部と周辺の領域を元の配列に正確に
332	下8行目	加熱 <mark>し</mark> た芽胞 <mark>が</mark> ,	加熱 <mark>され</mark> た芽胞 <mark>は</mark> ,
745	下4行目	01ig2 <mark>は</mark> 抑制しない。	01ig2の抑制はしない。
751	下8行目	異なる機構については	別の機構については
	コラム21-4	110細胞胚のB7.5割球で選択的に活性化さ	110細胞胚のB7.5割球(図1,矢印)で選択
	右段5行目	れる (図1, 矢印)。	的に活性化される。
	コラム21-4	Tbx6b/cはB7.5割球と同じく,	Tbx6b/cはB7.5割球のみならず,
752	右段7行目		
152	コラム21-4	(図1a, <mark>矢印</mark>)	(図1a, 青色染色部分)
	右段8行目		
	コラム21-4	(図1b, 矢 印)	(図1b, 青色部分)
	右段下5行目	(E410) /\[-1]	(PI 2-0) 17 CHP///

ページ	箇所	誤	正
757	コラム21-6	(図21- <mark>12</mark>)	(図21- <mark>13</mark>)
	左段7行目		
	コラム21-6	(図3)	(コラム21-3の図3)
	左段9行目		
763	8行目	エボ-デボ研究の推進力は、ハエ、線虫、	エボ-デボ研究の推進力となったのは、ハ
		その他のモデル生物の発生 <mark>の</mark> 遺伝解析によ	エ,線虫,その他のモデル生物での発生に
		る進化的多様性を引き起こす重要な遺伝子	おける遺伝的解析によって進化的多様性を
		の同定であり、	引き起こす重要な遺伝子が同定されたこと
			である。
772	10行目	1年前には	数年前には
	11行目	ゲノム解析例がある。	ゲノム解析がその例である。
834	解答14.C	冗長性を示唆している。	補完があることを示唆している。
	下1行目		

2023年4月現在